大館の歴史散歩

食と生活を訪ねて ③

大館の古代・中世

紀元前後、およそ二千年前に、「コメ作り」の技術は東北地方北部まで伝わってきた。青森県の弘前市砂沢遺跡・田舎館村垂柳遺跡で発見された水田跡がそれを証明している。大館地方でそのころのコメ作りを証明できる遺跡はまだみつかっていないが、津軽と交流の深かった当時の大館人は、コメを知っていたと言っていいだろう。

しかし、以後の気候の寒冷化、あるいは当時の人々の好みにも起因したのか、何らかの事情によって東北地方北部でのコメ作りは中断されたようである。中断がどれぐらい続き、いつごろからまたコメ作りが行われたのかを知る手掛かりは、今のところない。

この後大館地方で確実にコメ作りが行われていたことを証明できるのは、現在のところ山王台遺跡や大館野遺跡から出土した穂に付いたままの炭化籾や鉄製の鋤先であり、それらは、古くみても九世紀後半のものである。八百年余にわたるその間の大館のコメの歴史は、今後の調査・研究を待たなければならない。

九世紀から十世紀ごろに生きた大館人は、沢水を利用し、沢田を造ってコメ作りをしていたようである。現在のような沖積低地を開墾して田圃を造る土木技術、そして経済的な力は持っていなかったと考えられる。また、収穫したコメをすべて貢納せずに、いくらかは食していたという前提であえていうならば、彼らはコメを土鍋で煮て、粥にして食べていたと思われる。季節の山野草、魚介を加えた雑炊のようなものであったかもしれない。しかし、「ダンブリ長者」のような立場の人を除いては、毎日コメを食べるということもなかったであろう。

自然の産物やコメを除いた食物、人が作り出した食物にはどんなものがあったのであろうか。やや時代は下るが、十二世紀の建造物と考えられる矢立廃寺跡からは、畠でつくった作物の種が出ている。一九八六年の第五次調査でトイレが発見され、トイレの中からはクソベラとともに多種多量の種子が検出された。これは実と種をそのまま飲み込んだ結果、種だけが消化されずに排泄されたものである。

栽培種としてはウリ、エゴマ、イネ、ナス、自生種としてはアケビ、グミ、ヤマブドウなどの種が検出された。大部分をウリの種が占めていたが、当時日本に伝わっていたと考えられているシロウリ、マクワウリかどうかの判定はできなかった。リンゴの種も多くみつかったが、それが栽培されたワリンゴのものか、自生するリンゴ属のものなのかも判定できなかった。

自然の恵み豊かな大館の地に生きた先人たちは、自然の恵みに甘えるだけでなく、田を、そして畠を、持てる力の限りをふるって耕し、生き抜いてきた。今、私たちの周囲に広がる田や畠は、そうして生き抜いてきた先人たちの努力の歴史そのものなのである。

市役所史跡探訪会

クイズ 広報おおだてがヒント

▽問　題

①米代川流域拠点都市地域基本計画のキャッチフレーズは？

②脳ドックの予約受け付けは何月何日から？

③大館ふるさと会（仮称）の結成総会・祝賀会が開催されるのは何月？

④7月31日に開かれる街の茶会。会場はどこ？

⑤朝寝坊な人はアサネコギ、では夜ふかしする人のことは何という？

▽応募方法

はがきに住所、氏名、年齢、性別、答え（例①―②―）を書いてご応募ください。

▽締め切り

7月25日（月）当日消印有効

▽応募先

〒017大館市字中城20番地　広報おおだてクイズ係

※全問正解者の中から抽選で5人に、広報おおだて特製「秋田犬」のテレホンカードを贈ります

▽6月16日号の答え

①9日　②7月　③キンパ　④3年　⑤127件

▽6月16日号の当選者

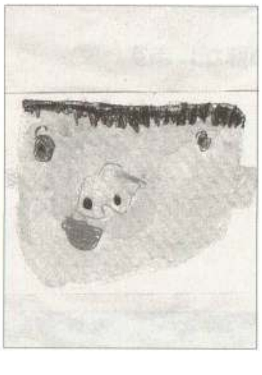
・三浦由希子さん（中神明町）
・加藤和子さん（末広町）
・田原幸子さん（天下町）
・奈良延子さん（猿間）
・松崎京子さん（豊町）

※応募総数61、全問正解者56

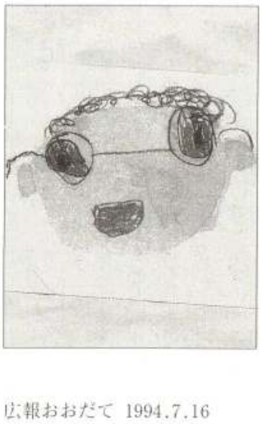
ちびっこギャラリー　おとうさん

城南保育園

かく　ゆうきくん
もういちどすいぞくかんへいってみたいな



さいとう　まさたけくん
うみで、おおきくてきれいなかいをとるんだ



おさない　むねゆきくん
サワガニをとりにつれてってもらうんだよ